MBC ラジオ『ここが聞きたい！ドクタートーク』2026.8.1

第 1213 回放送分『炎症性腸疾患』1 回目

ゲスト：上小鶴孝二ドクター

二見いすず

今月のドクタートークは「炎症性腸疾患」をテーマにお送りいたします。
お話は、鹿児島県医師会 上小鶴孝二（かみこづる こうじ）ドクターです。
上小鶴さん、よろしくお願いいたします。

上小鶴Dr.

よろしくお願いいたします。

二見いすず

早速ですが、炎症性腸疾患というのはどんな病気なのでしょうか。

上小鶴Dr.

炎症性腸疾患というのは、その名のとおり、炎症を伴う腸の慢性疾患です。
一般的には、原因不明とされ、狭義では潰瘍性大腸炎とクローン病の
２つを指されることが多いです。
割合でいうと潰瘍性大腸炎の方が多く、クローン病の２倍以上の患者さんがいます。

二見いすず

それでは今週はまず、潰瘍性大腸炎について詳しく教えてください。

上小鶴Dr.

潰瘍性大腸炎は、大腸の粘膜にびらんや潰瘍ができる大腸の慢性の病気です。
発症年齢は、男女ともに 20 代が最も多く、

中には小学生で発症する患者さんもいらっしゃいます。
もちろん中年や高齢者など、どの年代でも発症します。

二見いすず
なぜ若い患者さんが多いのでしょうか？

上小鶴Dr.
先ほどもお伝えしたとおり、潰瘍性大腸炎の原因はまだ正確には分かっていませんが、
遺伝的な要因があることと、自己免疫の異常が関係しているといわれています。
若いときは免疫力が旺盛だからこそ、
自己免疫疾患の意味合いで発症しやすいのではないかと考えられます。

二見いすず
症状としてはどのようなものがあるのでしょうか？

上小鶴Dr.
下痢や血便、腹痛、熱発そして体重減少などが見受けられます。

二見いすず
このような症状だと、まずはかかりつけの内科を受診する方が多いと思いますが、
内科の受診で大丈夫でしょうか？

上小鶴Dr.
この場合は消化器内科を受診してください。
内科の中でも循環器内科やリウマチ内科など、それぞれ専門が異なります。
「血便が出たら消化器内科」と覚えておいていただきたいです。
潰瘍性大腸炎は炎症があるので、ずっと風邪をひいているような症状に近いです。
倦怠感や発熱、もちろん腸の病気なのでお腹も痛くなったりします。
しかしこの程度なら、病院に行こうとはならない方もいますが、
血便が出ると、だいたいの患者さんは受診されるかと思います。

二見いすず
そうなんですね。

上小鶴Dr.
また排便の回数によって、軽症か重症かが分かります。
厚労省の定義では 1 日に 4 回以下なら軽症、6 回以上なら重症とされます。
多い方だと 10 回以上の方もいます。

二見いすず
トイレに行く回数でも軽症か重症か分かるんですね。
今月は炎症性腸疾患についてお送りいたします。

お話は鹿児島県医師会 上小鶴孝二ドクターでした。
上小鶴さん、ありがとうございました。

上小鶴Dr.
ありがとうございました。